資料8

コラム がん検診にデメリット？！

がん検診の利益（メリット）と不利益（デメリット）

利益 （メリット）	・がんの早期発見・早期治療による死亡率減少効果 ・がん検診で「異常なし」と判定された場合、安心を得られること
不利益 （デメリット）	・がん検診でがんが 100%見つかるわけではないこと（偽陰性） ・結果的に不必要な治療や検査を招く可能性があること（偽陽性） ・生命予後に影響しない、微小で進行の遅いがんを見つけてしまうこと（過剰診断） ・検査に伴う偶発症が起こりうること 胃内視鏡検査による出血や穿孔 胃エックス線検査における誤嚥や腸閉塞 マンモグラフィ・胸部エックス線検査・胃エックス 線検査に伴う、放射線被曝 等

出典：厚生労働省　がん検診の検査項目等について

　がん検診には、表のとおり、利益と不利益があります。がん検診を受ける際には、それらを理解して受けることが大切です。
　また、厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」では、受診を特に推奨する年齢の上限は69歳と記載されています。
　横須賀市では、年齢の上限は定めていませんが、70歳以上の方は、検診の不利益が大きくなっていないか、主治医とも相談しながら検診の効果を最大限発揮できるよう、総合的に判断しましょう。

P65

⑤がん検診の課題・対策・今後の取り組み

【課題】

・早期発見・早期治療で生存率が高まるため、さらなるがん検診受診率の向上が必要です。

～　省略　～

・令和2年度（2020 年度）、新型コロナウイルス感染症による受診控えで受診率が落ち込みました。回復基調にありますが、以前の受診率には戻っていない検診がほとんどです。
・がん検診には、利益と不利益があります。利益は、早期発見・早期治療により命を守ることなどが、広く知られていますが、偽陰性、偽陽性、過剰診断、偶発症の不利益もあります。がん検診を受診した人はどなたでも、これらの不利益を受ける可能性があり、それらを理解して検診を受けることが大切であるため、引き続き十分な周知が必要です。